

デジタル人材育成を地方から ～青森県での事例紹介～

鈴木 伸

(受付：2022年8月5日 受理：2022年8月5日)

1 はじめに

デジタルトランスフォーメーションの推進のための主要なキーファクターであるデジタル人材不足については、日本全国で喫緊の課題になっている。特に地方でのデジタル人材不足は深刻で、産業の発展の阻害要因になっている。本稿では、青森県での事例を挙げながら、地方でのデジタル人材育成について報告する。

2 青森県での取組

2.1 青森県で取組みをはじめたきっかけ

デジタル人材育成学会の法人会員である REGAIN 株式会社の人材採用をより円滑に行うことを目的として、大学との連携強化をしたいという要望があったのが「企業」と「大学」の連携を検討するきっかけになった。

REGAIN 株式会社は青森県八戸市にオフィスを構え、マーケティングセンターとして事業を展開していることから、青森県の大学との連携の検討を希望しており、2022年1月から活動を開始した。青森県は県全体で、10の大学を有し、全国でも大学数では中間ぐらいの位置にいる状況にある。しかしながら、理科系特にIT系の大学は多くなく、文系の学科が多い状況にある。文系の学校、学部に通う学生でも、ITに適性があり、DX人材となるような人材もいるのではと考え、アプローチした。何とかデジタル人材育成に熱心な大学を紹介いただき、その候補となった青森中央学院大学の経営企画を行っている方と、育成を主導されている教授にご協力いただき、大学のカリキュラムの中で、REGEIN 株式会社が授業を行うスキームができた。

2.2 具体的な取り組み事例

カリキュラムの中では大別して、2つのプログラムの中で REGEIN 株式会社による講義・実習が実現した。

1つ目は、一般教養の中でこのカリキュラムを実行することである。ITの事業や技術領域を学生に認知してもらい、興味をもった学生を発掘するとともに、将来自らの職業の選択の一つとしてITを選択する道を作ることを目的としている。

2つ目は専門コースの学生を対象としたハンズオン形式で演習である。実際にITの技術を体験し、体験を通して自ら考えることで、自らの可能性を考えるきっかけを学生にあたえ、より具体的かつ積極的にDX人材を目指してもらうことを目的としている。

2.3 授業の内容

一般教養の授業では、1年生と3年生を対象として授業を行った。授業の形式は講義形式で、企業側から、事業の内容（どのような仕事であるのか）や、IT業界で働く意味などを、講演者の経験を踏まえながら語られた。文系の学生という状況もあり、いままで話を聞く機会もなかったような内容と思われ、大教室での授業にもかかわらず、非常に真剣に取り組む姿が印象的であった。特に3年生にとっては、就職活動が年々早期化する中で、非常に重要な情報のインプットになったのではないかと考える。

専門のカリキュラムでは、実際にチャットボットを使った演習形式の授業内容を実施した。実際に自ら手を動かすことで、ITの体験をして、自らの適性を図ってもらうための良い機会になったと推察する。

3 考察

3.1 考察

今回の青森県での事例については多くの方のお力をお借

りすることで実現できたと考えている。特にその地方独自の状況は、在住し人材育成に一方ならぬ思いを持っている人の協力なしにはなしえることが難しいと考える。

しかしながら、現状は大学側では、DX 人材をどのように育成していったらよいか悩むことも多く、特に企業で活躍できる人材を育成するために企業とのアクセスを望んでいるにも関わらず、アクセスの手段がないという状況になっている。一方企業のほうでも、人材不足を解消するた

めに、大学にアクセスしたいが、なかなかその方法がなく、苦慮している状況にある。この状況を解消するためには、大学と企業の接点を持つ場を提供しながら、そこに、大学と企業が参集する仕組みを作ることが重要だと考える。

今回の青森県での事例はその1つの事例ではあるが、さらにいろいろなケースを作っていくことで、DX 人材の育成に貢献できると考えている。